

1. 科目名 (単位数)	教育相談 (カウンセリングを含む) (初等) ／教育相談 (カウンセリングを含む) (初等・幼) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3314
2. 授業担当教員	荻原 邦昭		
4. 授業形態	講義・演習 (ディスカッション、グループ学習)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	教育相談とは、幼稚園・小学校や中学校・高等学校など教育現場において、幼児・児童・生徒のこのころの問題を扱うだけでなく、幼児・児童・生徒を取り巻く家族や友人状況、地域・家庭の教育力の低下等、家庭や社会環境の変化なども考慮しながら進められていく、教育現場における心理的な支援活動である。本授業では、教師あるいはスクールカウンセラーが行う教育相談活動について、幼児・児童・生徒を理解するために必要な知識や方法およびカウンセリングを含めた実際の介入方法などについて、知識を深めロールプレイや討論も交えながら実践力を身につけることを目的とする。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談の意義と目的、内容と領域について理解し、説明することができるようになる。</li> <li>2. 教育現場における教育相談の基本的視点、展開の方法について理解し、説明や討論 (事例検討も含める) をすることができるようになる。</li> <li>3. 教育相談を効果的に展開するため、枠組みとなる代表的なカウンセリングの理論と技術について理解し、説明やロールプレイをすることができるようになる。</li> <li>4. 教育相談の治療的、予防的、開発的側面や現代の諸課題について理解し、説明や討論をすることができるようになる。</li> </ol>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【中間レポート課題】 「生徒指導と教育相談との関わりについて事例を通して考察せよ」 ※1, 000字から1, 200字程度で述べなさい。</p> <p>【期末レポート課題】 「望ましいカウンセリングのあり方を、講義で触れた側面を取り上げて考察せよ」 ※1, 000字から1, 200字程度で述べなさい。</p> <p>【振り返りシート作成】 毎授業のまとめを行い、定期的に提出し、添削を受ける。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 石川正一郎・藤井泰編著『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房, 2013。</p> <p>【参考書】 石隈利紀著『学校心理学』誠信書房 2015 文部科学省『生徒指導提要』教育図書, 2010。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談の意義と理論を理解し、説明できるか。</li> <li>2. カウンセリングに関する基礎的・基本的事項を理解し、説明やロールプレイをすることができるか。</li> <li>3. 教育相談の具体的な進め方やポイントを理解し、組織的な取り組みや他機関との連携の必要性、現代の課題を把握して説明や討論 (事例検討も含める) をすることができるか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の学習状況、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業への積極的参加 (発言、討議、態度、課題シートへの取り組み) 総合点の 50%</li> <li>2. レポート (小論文、中間レポートを含む) 総合点の 50%</li> </ol> <p>上記のほか、本学の規定である 3/4 以上の出席が単位取得の条件であることも配慮する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本講義は教職のための資格科目であり、将来の教育者としての思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な理論、技能の獲得を目指している。この目的達成のため、受講者は次の事柄を遵守することを望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 常に高い緊張感と集中力を保って受講し、自己鍛錬を怠らない。</li> <li>2. 質問、発表を積極的に行い、主体性の形成に励む。</li> <li>3. 欠席、遅刻、早退をしないことで自己管理能力をつける。</li> <li>4. 勝手な退室や、講義に関係のない振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などをせず、常にセルフモニタリングにつとめる。</li> </ol> <p>なお、明らかに態度が悪いと判断された場合厳格な指導が行われる。その後も改善されない場合は全出席であっても F 評価になることがある。</p> <p>また教員は次のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の目的を明確にし、シラバスに沿って講義する。</li> <li>2. 声の大きさや話し方など、受講者の聞きやすさ、わかりやすさについて配慮する。</li> <li>3. 討議や演習など受講者が積極的に講義に参加できる環境を作る。</li> <li>4. 受講者の質問には誠実に対応する。</li> <li>5. 受講者が上記のメッセージ 1～4 が守らない場合、厳格に対処する。</li> </ol>		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション・教育相談の意義 教育現場における子どもの心の問題や子どもを取り巻く保護者・教師など様々な環境の問題について、教育相談でどんなことを学んでいくのか、見通しを立てる。 教育相談の意義、形態、方法を学ぶ	事前学習	教科書 pp. 2～5 を読んで、教育相談の意義について調べる。また教育に関するニュースの中で関心をもった事柄を整理しておく。
		事後学習	今後の授業内容について理解し、教育相談の意義や形態、方法等についてまとめる。

第2回	教育相談と生徒指導① いじめ問題を取り上げ、定義の変遷、実態、理論を考え、事例を通していじめられる子、いじめられる子、保護者へのそれぞれの対応についてグループディスカッションを通して学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 149~162 を読んで、いじめについて調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	いじめの実態やその対応について学んだ内容について、ポイントをまとめる。
第3回	教育相談と生徒指導② 不登校（不登園）を取り上げ、定義、実態、態様を理解し、事例を通して初期対応、長期対応などについてグループディスカッションを通して学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 112~123 を読んで、不登校（不登園）について調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	不登校（不登園）で学んだ内容について、ポイントをまとめる。
第4回	教育相談と生徒指導③ 非行や児童虐待を取り上げ、その実態、原因、背景、種類を知り、事例を通して予防策、対応について考える。	事前学習	教科書 pp. 126~138 を読んで、今日の非行や児童虐待について調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	非行や児童虐待への予防と対応について、ポイントをまとめる。
第5回	来談者中心療法とカウンセリング・マインド 来談者中心カウンセリングの意義を知り、子どもに対する教師の態度や姿勢として必要とされるカウンセリング・マインドについて理解し、受容・傾聴・共感的理解について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 13~21 を読んで、来談者中心療法とカウンセリングマインドについて調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	来談者中心療法の特徴とカウンセリングマインドの重要性について、ポイントをまとめる。
第6回	開発的カウンセリング 開発的カウンセリングとは何かを知り、構成的グループ・エンカウンターやアサーション・トレーニング、ピアサポート等について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 23~31 を読んで、構成的グループエンカウンター等について調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	さまざまな手法があること、またその内容について、ポイントをまとめる。
第7回	さまざまな心理療法 教育相談に役立つ心理療法について、精神分析、交流分析、論理行動療法、認知行動療法、ブリーフセラピー、箱庭療法などの概略を知る。	事前学習	教科書 pp. 32~43 を読んで、さまざまな心理療法について調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	心理療法と教育相談との関連について、ポイントをまとめる。
第8回	パーソナリティ パーソナリティという概念について知り、パーソナリティ理論の類型論と特性論について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 48~55 を読んで、パーソナリティの意味を調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	特性論と類型論の違いについて、ポイントをまとめる。
第9回	発達と教育相談 発達とは何かを知り、発達段階についての諸理論を学ぶことにより、幼児児童生徒を理解し適切にかかわるためには発達途上にある子どもの特性を知っておく必要があることを理解する。	事前学習	教科書 pp. 57~67 を読んで、発達理論について調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	ピアジェ、コールバーグ、フロイト、エリクソンの発達段階説について、ポイントをまとめる。
第10回	発達障害と教育相談 発達障害とは何かを知り、自閉症スペクトラム、AD/HD、学習障害のそれぞれの特性について知り、事例を通してその対応の在り方を学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 69~78 を読んで、発達障害の種類とその特徴について調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	自閉症スペクトラム、AD/HD、学習障害などの内容について、ポイントをまとめる。
第11回	心の問題と教育相談 心の問題の種類について知り、統合失調症、気分障害、摂食障害、不安障害、チック、自傷行為、心身症、緘黙症などの概略を学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 79~88 を読んで、心の問題の種類について調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	児童の心の問題への対応として、学んだ内容について、ポイントをまとめる。
第12回	教育相談におけるアセスメントと心理検査 子どものアセスメントの重要性を理解し、さまざまな心理検査の概略を知り、その活用について考える。	事前学習	教科書 pp. 90~100 を読んで、アセスメントとは何か、またさまざまな心理検査について調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	さまざまな心理検査の内容とアセスメントの関連について、ポイントをまとめる。
第13回	保護者への支援 今日の保護者の現状と保護者への望ましい支援について知り、また事例を通してその対応としての教育相談のあり方を考える。	事前学習	教科書 pp. 163~174 を読んで、保護者支援の留意点について調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	特に難しい保護者への対応について、ポイントをまとめる。
第14回	関係機関との連携・協働 幼稚園・小学校が連携する地域の医療・福祉・心理等の専門機関について知り、協働の必要性和重要性について理解する。授業のまとめを行い、最後に授業評価を行う。	事前学習	教科書 pp. 186~196 を読んで、関係機関との連携・協働について調べ、説明できるようにしておく。
		事後学習	地域の医療・福祉等の専門機関との連携・協働で学んだ内容についてポイントをまとめる。
第15回	事例検討のグループ演習 保幼中心の事例をグループにて検討し、発表し合う。	事前学習	第14回目までの授業内容を復習しておく。
		事後学習	授業全体を振り返り、学校現場で取り組む教育相談について、自分としてできることは何かについて考えてまとめる。